

なかよくする子ども

思いやることの大切さ



年長のS君は発達障害の園児です。園庭でリレーの練習をしている時のことでした。おぼつかなく走るS君が、走るコースを外れかけたその時、同じクラスのA君が待機場所から飛び出してきたのです。そしてS君の手をつないで、ゴールに向かって一緒に走ってくれました。

S君の日常のことをよく知っているA君だからこそ、このまま放っておくとゴールすることができないことに気づき、無意識にこのような行動をとってくれたのだと思うのです。自分の損得に関係なく、相手のことを考えることのできる思いやりの心があるからこそ、S君とA君の二人は、園の中で仲良く生活を送ることができているのだと思います。

幼い時期の子どもは、自分中心の判断や行動をとることが多く、他人の気持ちを理解して行動することは、そう簡単なことではありません。子どもの成長過程の中で、思いやりの心を育ていく大切な要素の一つが、絵本を読むことだと言われています。

「世界一受けたい授業（日本テレビ）」という番組のなかで紹介された絵本、『どんなかんじかなあ』（中山千夏・自由国民社）の一節に、

ともだちの まりちゃんは めが見えない。

それで かんがえたんだ。

みえないって どんなかんじかなあって。

しばらく めを つぶっていたら わかるかもね。

うん、めを つぶっていてみよう。

この絵本は人間関係の中で、相手の立場にたって想像し、考えてみることの大切さを教えてくれています。このような行動をとることこそ、まさに「思いやりの心」ではないでしょうか。

世界的に有名な建築家の安藤忠雄氏が設計され、自らの私財を投じて寄贈された施設に、子どもが楽しんで自由に本と出会い、学ぶことのできる図書館「こども本の森」があります（現在、日本で大阪、神戸、遠野（岩手県）の3施設があります）。時代を担う子どもたちの心の成長を願い、本を読むことの大切さや必要性を、さまざまな場面を通して発信され続けておられます。

今は子どももスマホやインターネットに接する時代です。しかし思いやりの心を含め、判断力、表現力、創造力等を育ていく上で、幼い時から絵本に親しみ、絵本を読むことの面白さや楽しさを、是非、身につけてほしいと願っています。

また園では毎日、阿弥陀さまに礼拝し、「四つのお約束」をしています。こうした日々の積み重ねが子どもたちの心の中に、思いやりや、やさしさの心となって、確かに育っていることをうれしく思っています。

まことの保育の願い

赤井秀顕